

唾液の臨床検査としての有用性の検討－栄養状態と唾液中sIgAの関係－

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 澁谷, 雪子, 北野, 悦子 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1010

4-P-4

唾液の臨床検査としての有用性の検討ー栄養状態と唾液中 sIgA の関係ー

澁谷雪子¹⁾

北野悦子¹⁾

【はじめに】 唾液の役割の 1 つに「免疫能」があげられる。そこで、本研究は血中の栄養状態を評価する項目 (TP、ALB) と、唾液成分 (sIgA) の濃度との関係性を検討する。また、アンケート集計により免疫能評価を行った。

【方法】 1) 対象：対象はインフォームドコンセントを得た神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 4 年生 27 名と教員 1 名である。 2) 採取方法：唾液はサリベットを使用して自己採取 (混合唾液)、血液はシリンジ採血を行った。 3) 測定方法：唾液は sIgA、唾液量測定、血液は HDL-C、アルブミン、総蛋白、トリグリセライド、総コレステロール、白血球数を測定した。また、アンケートより BMI を算出した。

【結果・考察】 血液データより、唾液中 sIgA 濃度と栄養状態を反映する総蛋白、アルブミンの間に負の相関がみられた。栄養状態が優れない人ほど sIgA 濃度が高い傾向がみられ、栄養状態が優れている人ほど sIgA 濃度が低い傾向がみられた。アンケートより、sIgA 濃度は食生活に関係があることが示唆された。

1) 保健科学部医療検査学科